

# 大分・別府の小中高生5人、15日全国大会



全国大会に出場するら  
長愛絆さん(左端)5人＝大分市明野北

【大分】ブロック玩具を使った自律型ロボットの性能と、さまざまな課題を解決する力を競う「フアースト・レゴリーグ(FLL)」の全国大会(15日・東京都)に、大分、別府両市などにあるプログラミング教室「キックス×クレフアス」に通う小中高生の5人のチームが出場する。好成績を収めた7チームは世界大会への出場権を得ることができ、「世界1位を取る気持ちで頑張りたい」と意気込んでいる。

5人は長愛絆さん(16)＝大分工業高等専門学校1年、田辺皓揮さん(16)＝同校1年、松山琥珀さん(16)＝同校1年、池永留依さん(14)＝向陽中2年、三池龍獅朗さん(11)＝大分大付属小5年。大会では自らプログラミング

## ロボット競技 つかめ世界切符

## 「考古学」テーマ、製作・プレゼンへ

グして組み立てたロボットゲームの成績に加え、毎年与えられたテーマに沿った、課題解決のプレゼンテーションの内容、チームワークなどが総合的に評価される。

今回は「考古学」がテーマ。5人はロボットの製作とプレゼン担当に分かれ、昨夏から準備を進めてきた。プレゼン担当は、県立埋蔵文化財センターの展示品の魅力を伝えるため、同センターでクイズに答えながら楽しめるようにしたいと考え、同センターの協力の下アプリを開発。アプリは1月中旬から導入されている。本番では経緯や工夫した点などを発表する。

全国大会には地域別の4ブロックを勝ち抜いた36チームが出場する。リーダーの長さんは「これまで4回全国大会に出場しているが、今回は一番の完成度。世界1位を取る気持ちで頑張りたい」、指導した甲斐智希さん(30)は「リーダーの長さん以外は初出場。世界大会出場を目指して気持ちを強く持っていて挑戦してほしい」と話している。